

戦後70周年記念誌「祈り」の発刊にあたって

我孫子市は、核兵器の廃絶と恒久平和を願い、昭和60年12月に「平和都市宣言」を行いました。また、平成20年に我孫子市平和事業推進条例を制定し、平和を願う市民の皆さんの参加のもとで、平和事業に取り組んできました。

戦後70年、我孫子市平和都市宣言30年の節目の年にあたる平成27年は、原爆や戦争の恐ろしさ、平和の大切さを次の世代に伝えていくことをテーマに、様々な平和事業を実施しました。

広島中学生派遣事業では、例年の12名から24名に倍増し、平和についてたくさんのことを学ぶとともに、広島の平和記念公園内にある「平和の灯（ともしび）」から火を分けていただき、この火を、派遣中学生の手により、我孫子の「平和の灯（ともしび）」に、点火しました。

また、「広島・長崎派遣中学生リレー講座」では、これまで広島や長崎に派遣された歴代の仲間たちが、平和学習の講師として、市内全ての小学校で講座を実施し、後輩たちに戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切さを伝える新たな取り組みも生まれました。

さらに、広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルで、被爆から10年後に12歳で亡くなった佐々木禎子さんが病床で折った折り鶴の寄贈を受け、生涯学習センター（アビスタ）に展示を行うなど、多くの市民や団体の方々のご協力により、多彩な事業を行うことができました。あらためて皆様に感謝申し上げます。

この記念誌を通して、戦争や原爆を体験された方が少なくなる中、二度とこのような惨禍を繰り返すことのないよう、平和について考えていただき、若い世代に語り継ぐ一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、発刊にあたりご尽力いただいた我孫子市平和事業推進市民会議の委員をはじめ、体験や思いを寄せてくださった市民、多くの団体の皆様に心からお礼申し上げます。

平成28年3月

我孫子市長 星野 順一郎

戦後70年記念誌「祈り」の発刊にあたって

戦後と呼ばれて既に70年が経過しました。私を含めて、直接戦争を経験しない戦後世代がほとんどを占める日本という国の中で、もはや戦後という言葉さえ死語になりつつあります。しかし、決して死語にしてしまっはいけないのだと思います。

今回多くの市民の皆さんが、記念誌「祈り」に自らの体験談や平和への思いを寄稿してくださいました。この思いを受け止め、次の世代に語り継ぐことが出来るのは今しかありません。若い世代が意識してその役割を担っていくことが、平和を守る事への大切な道筋だと思います。

我孫子市は戦後60周年の節目から中学生を被爆地である広島・長崎に派遣してきました。そうして昨年6月から、かつて派遣された先輩達が自らの意志で、その時に感じた自分たちの思いを、平和リレー講座という形で市内13小学校全てで後輩たちに授業を行ってくれました。

私も出来る限り多くのリレー講座に立ち会い、先輩たちの思いがしっかりと子どもたちに伝わっていく姿に感動しました。人に伝えるという事とおして、彼ら自身もより一層成長したのだと思います。私は彼らを誇りに思います。

昨年は派遣中学生の数を倍の24名としたこともあり、私も広島へ同行させていただきました。そうして彼らが真剣に向き合っている姿に頼もしさを感じました。

「平和の灯の分火」や「禎子鶴の寄贈」は、平和都市を宣言し市民の皆さんと一緒にあって平和事業を続けて来たこと我孫子市へのご褒美だと思います。

私達は、これからも継続して平和を希求していかなければならないと思います。

平成28年3月

我孫子市教育長 倉部俊治

戦後70年記念誌発刊にあたって

～70年続いた平和を、次世代につなごう～

先の戦争が終わって70年経ちました。憲法で不戦を誓い、憲法が私達の日本に平和な時を授けてくれました。終戦の年に生まれた方も70歳になり、戦争の記憶はもとより、体験となると、80歳を超える方々となってしまう、それを語り、伝えられる事はかなり難しい状況になりつつあります。

我孫子市は、30年前の、1985年に「平和都市宣言」を行い、2008年には、「我孫子市平和事業推進市民会議」が発足、市内中学生の代表を、被爆地広島・長崎への派遣等様々な事業を実施してきました。更に、戦後70年になる節目の今年、「戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年平和事業運営委員会」が設けられ「ブログでの発信」「平和イベント」「派遣中学生OBによるリレー講座」「記念誌の発行」等を行うこととなりました。この記念誌はそのような位置付けにあります。

戦争体験を語れる方は数少なくなりました。体験談の冊子はこれが最後になるかもしれません。「戦後70年・我孫子市平和都市宣言30年記念誌」は、若い人の平和への思いや、自らの悲惨な戦争時体験が語られています。是非お読み頂き、平和をかみしめてください。

戦後70年の節目には、多くの取り組みがありました。様々な考え方が交錯し、世情は混沌としています。今回の記念誌にもそれらが反映され、多様な意見、考えが語られていますが、それらは寄稿者の意志であり、考え方を尊重してそのまま掲載しています。

尚、記念誌発行に際し、ご協力下さいました方々に末尾ながら感謝申し上げます。

平成28年3月

我孫子市平和事業推進市民会議（戦後70年平和事業運営委員会）

会長 深山恒男